

中病だより

自衛隊中央病院
総務部総務課発行
平成30年度
第3号

年頭の辞



自衛隊中央病院長
防衛技官 上部 泰秀

新年明けましておめでとうござい
す。皆様におかれましては、穏やかな
新年をお迎えのこととお喜び申し上げ
ます。また、平素から当院に對しまし
て格別のご理解・ご支援を賜り、全勤
務員を代表しまして心より御礼申し上
げます。

さて、当院は開院以来六十四年にお
たり、防衛省・自衛隊の最終後送病院
として隊員・家族の方々の健康管理や
診療はもとより、災害派遣活動や国際
平和協力活動等に要員を派遣すること
もに事態対処における衛生支援の態勢
整備に積極的に関与し、防衛省・自衛
隊の無事の任務完遂に寄与しています。
また、地域の方々の安心のため、年
間五千台を超える救急車を受け入れる
等、救急医療を始めとする地域医療の
一翼を担うとともに、大規模災害時の
医療支援を念頭に地域医療機関や行政

行政機関等との連携強化にも積極的
に取り組んでいます。昨年七月には東京
オリンピック・パラリンピックを念頭
に、自衛隊の部隊のみならず警察・消
防・自治体等の機関等と連携した特殊
武器によるテロへの対処訓練を実施し
ました。また、同十月には第一種感染
症指定医療機関として、新型インフル
エンザやエボラ感染症の発生を想定し
た感染症患者受入訓練を自治体等の参
加を得て行い、対処要領の実効性の向
上を図っています。

さて、我が国を取り巻く安全保障環
境は、一段と厳しさを増しつつありま
す。中国及びロシアによる軍事力の近
代化・強化及び活動の活発化、北朝鮮
の核・ミサイルならびにサイバー領域
における能力の保持に加え、地域紛争
国際テロ、サイバー攻撃、大規模災害
等の課題及び不安定要素がより顕在
化・先鋭化しています。国内において
も、昨年は平成三十年七月豪雨や北海
道胆振東部地震が発生しましたが、首
都直下や南海トラフ地震、台風豪雨等
の大規模自然災害の発生や新型インフ
ルエンザの流行も強く懸念されていま
す。

このような中、新たな防衛力整備・
運用の指針である「平成三十一年度
以降に係る防衛計画の大綱」が閣議決
定されました。新たな大綱では、我が
国の防衛力を真に実効的にするため、
「宇宙やサイバー空間、電磁波という
新しい領域を死活的に重要とし、陸海

空での対処を加えた領域横断（クロ
ス・ドメイン）作戦を遂行する多次元
統合防衛力を構築していく。」ことを
謳っています。

そして衛生は防衛力を支える要素と
して、「第一線から最終後送先までの
シームレスな医療・後送態勢を強化す
る。自衛隊病院の拠点化・高機能化等
により、効率的で質の高い医療体制を
確立する。自衛隊の部隊の衛生に係る
人材確保のため、防衛医科大学校の運
営を改善し、戦傷医療対処能力の向上
を含む教育・研究を充実・強化す
る。」と記載されています。

我々自衛隊中央病院は最終後送病院
としての責務を果たすため、隊員や家
族の方々への日々の健康管理や診療を
更に充実させるとともに、態勢整備の
推進や各種教育訓練の徹底により不測
事態対処能力の向上に力を尽くして参
ります。そして地域の方々の安心のた
め、救急医療を始めとする質の高い医
療の提供のみならず、大規模災害発生
時の医療支援や新興感染症流行時の患
者受入の態勢整備も進展させて参りま
す。

最後に、本年も当院に對するご支
援・ご協力をお願い申し上げますと
もに、皆様にとつて幸多き年となりま
すことを心からお祈りし、新年のご挨拶
といたします。

平成三十一年一月吉日

自衛隊中央病院長

防衛技官 上部 泰秀



副院長（陸）
陸将 鈴木 智史

新年あけましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては、穏や
かで素晴らしいお正月を迎えられて
いることと思います。昨年は、自衛
隊中央病院に對し多大なご支援、ご
協力を賜りありがとうございました。
さて、日本を取り巻く安全保障環
境は、中国の軍事力の広範かつ急速
な強化や力による現状変更の試み、
北朝鮮の多数の弾道ミサイル保有と
非対称的な軍事能力の保持、ロシア
の北方領土における軍事活動の活発
化など、拡大に速いスピードで厳し
さと不確実性を増しています。我が
国も昨年末に、新たな防衛力整備の
指針である「30防衛計画の大綱」及
び「31中期防衛力整備計画」が閣議
決定されました。

衛生においては、隊員の壮健性を
維持するとともに、各種事態への対
処や国内外における多様な任務に對
応しうるよう衛生機能を強化する必
要があると明記されています。

そのような中、自衛隊中央病院は
最終後送病院としての更なる能力向
上と「救命ドクトリンの実現」のた
めの医療従事者の教育訓練の充実・
強化が求められています。

昨年は、職員一丸となって、救急
診療態勢を充実させ、五千台超の

救急車を受け入れ、地域医療の重要な一翼を担うと同時に、診療実績を増加させ、医療従事者の教育の充実を図ることができました。

また、オリンピック・パラリンピックを見据え、テロ・特殊災害を主眼とした多機関連携の大量傷者訓練、エボラ出血熱・新型インフルエンザ患者受け入れを想定した感染症対処訓練を実施し、事態対処能力を向上させることができました。

本年も引き続き、上部病院長を核心として、国民の期待に応え信頼されるために、最終後送病院としての更なる能力向上と事態対処能力の向上を通じて、自衛隊衛生の能力向上に寄与するために、微力ながら努力していく所存です。変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

今年一年が皆様にとって素晴らしい年となりますことを祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



副院長（海）
海将 佐藤 道哉

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかですばらしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は、自衛隊中央病院に多大なご支援、ご協力、そして、ご指導を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、極めて速いスピードで変化する安全保障環境のもと、自衛隊には、全ての領域を横断的に連携させた新たな防衛力の構築を、迅速かつ柔軟に行うことが求められています。

その中で、各種事態に対応する隊員の生命を守るために、衛生機能強化の重要性が強く認識され、医官・看護師などの育成の強化、第一線救護能力の向上をはじめとして、省をあげて様々な取り組みが継続的に実施されているところではあります。

自衛隊の最終後送病院である自衛隊中央病院においても、それらの施策に一層積極的に関与する必要があります。特に、医官教育においては新たな専門医制度への対応、看護官教育においては四年制教育を受けた看護師への対応、そして、衛生職域隊員全般においては救急救命治療における能力向上等々、衛生支援の基盤となる教育態勢の充実強化は極めて重要な任務と考えています。

それらを念頭に、教育担当副院長としての職務に精励し、病院長の要望事項である「非常時に安心を、地域に貢献を、職員に誇りを、患者に満足を、健康に万全を」の実現に貢献していきたいと思っております。

本年も、自衛隊中央病院に対する引き続きのご指導をお願いするとともに、皆様にとりまして、今年もよい年になるよう祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。



総務部長
防衛事務官 松村 智秀

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

東京オリンピック・パラリンピックを来年に控えたスポーツ界において、昨年は、大坂なおみ選手、桃田賢斗選手、張本智和選手、紀平梨花選手、池江璃花子選手、そして大谷翔平選手など、若くて素敵なアスリート達が様々な競技で大活躍を果たし、日本を大いに盛り上げ勇気を与えてくれました。

その一方で官庁においては、決裁文書の改ざんなど本来あってはならないことが明るみになるなど、公文書管理や情報公開などに厳しい目が向けられることとなりました。

そのような中、自衛隊中央病院はこの一月に定期防衛監察（事前調査）を、二月に同（本調査）の受察を控え、本番で何らの指摘も頂くことのないよう準備万端院を挙げて整えてきたところです。特に最近では、より日常的な業務にかかわる問題にまで重点項目が拡大傾向にあるということですので、組織としての体制整備はもちろんのこと、受察中の個人面談においては各人がしっかりと対応を求められることと

なります。

当院は、平成二十八年四月に東京都から二次救急医療機関に指定されて以降、救急車受入台数は年々飛躍的に伸び、平成三十年は十一月末（十一月）で累計五千台を超えています（平成二十七年：約五百台、平成二十八年：約二千台、平成二十九年：約三千六百台）。

この台数増に伴い、救急診療態勢の充実、高度医療診療態勢の維持・向上、部外者の病院利用率の向上などの評価事項が得られております。

しかしながら、この二次救急指定に伴う診療数の増は、医療費の増といった予算執行上の問題に加え、従前と変わらぬマンパワーで業務を行っている医事業務等は悲鳴を上げている状態です。

マンパワー補充の要望はあげているものの、今後想定される更なる診療数の増を考えると、改善・効率化に向けた大胆な業務要領の見直しなどに踏み込む必要があると考えております。

安全保障環境が大きく変わろうとしている情勢の中、上部病院長の下、当院がその役割を十分に果たせるよう、効率よく仕事が出来るとする明るい職場環境を整え、あらゆる課題に皆が知恵を出し合って一つひとつ解決していくことが一番であると思っております。

年始に当たり、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶いたします。



謹んで、新春のお慶びを申し上げます。旧年中は皆様にご大変わ世話になりました。昨年九月二十六日に歴史ある自衛隊中央病院最前任上級曹長に上番し、部内外の多くの方々に、格別のご支援、ご協力を賜り、新しい年を迎えることが出来ました。皆様が私に力を与えてくださったように、今後は私が皆さんに、何かお役に立てることが出来るよう日々勤めさせていただきますと思います。

さて、季節は今後、寒さ厳しい冬から春へ、夏秋と過ぎ、また冬へ。地球規模の異常気象と騒がれつつも、春は桜を、夏は緑を、秋は紅葉を、冬は白銀を、また見せてくれることと思います。日本の四季の移ろいは変わることなくこれからも美しく繰り返されることとしましょう。

しかし、時代は変化を続けます。昨年十二月十八日、新たな防衛力整備の指針「防衛計画の大綱」と「中期防衛力整備計画」が決定しました。従来の防衛力整備指針を転換しなければならぬ時代の変化、安全保障環境の変化



最前任上級曹長
准陸尉 犬飼 耕



が起こり、それは今後、コンピュータ技術、人工知能（AI）の発達により、さらに加速することが予測されます。これらの時代の要請に対応しつつ、病院の上級曹長業務系統を更に機能發揮させ活動の基盤とし、衛生科隊員の意識改革及び活性化に信念を持って取り組むとともに、陸海空自衛隊衛生科と在日米軍等との下士官交流を推進し、相互理解、連携の深化に邁進していく所存であります。

オリンピックを控えてテレビ等でスポーツ番組を観る機会も増えてきました。オリンピックの精神は「文化・国籍等の様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解しあう、平和でより良い世界の実現に貢献する」とありました。実に素敵な精神ですね。

陸海空、日米の相互理解に係ることが出来るこの職務に幸福と責任を感じます。

結びに、皆様とご家族にとつて幸多き心安らぐ年となりますよう祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



「救急車年間受入台数 5,569台達成」



↑ 救急科部長 西山 1 佐を囲む救急科のメンバー

自衛隊中央病院は、平成二十二年度の救急告示病院としての指定以来、東京都二次救急医療機関の認定、平成二十九年七月一日付けで「東京都地域救急医療センター」の指定を受ける等、各種の施策を行うとともに、常に新たな態勢を確立し続けてまいりました。

その結果、平成二十七年以降、救急車受入台数は飛躍的に増加し、本年は一月から十二月の各月の平均受入台数が約四六〇台を超過し、平成三十年十二月には、五五九台を達成いたしました。これは平成二十二年度の救急告示開始時期に比較すると、約五十倍近い台数となります。

自衛隊中央病院は、今後よりいっそう救急医療を活性化させ、地域医療に貢献するとともに、救急を通じ、様々な事態に対処できる医療従事者の教育と、態勢作りに取り組んでまいります。

最前任上級曹長交代式

平成三十年九月二十一日（金）、最前任上級曹長交代式が行われました。



上部病院長はじめ、両副院長、総務部長の立会のもと、第三代 阿久津准尉から、第四代 犬飼准尉へ、最前任上級曹長のバトンが渡されました。

病院朝礼の終了後、中央病院に勤務する准曹を前に、上部病院院長が、阿久津准尉の右胸の最前任上級曹長徽章を犬飼准尉に授与し、交代はつづがなく執り行われました。

その後、阿久津准尉が准曹に対し離任の辞を述べ、四年間の勤務を振り返るとともに、准曹隊員へ、エールを送られました。



↑ 離任の辞を述べる
第3代最前任 阿久津准尉



↑ 着任の辞を述べる
第4代最前任 犬飼准尉

平成30年度感染症患者受入訓練

「N95マスクの装着要領を演練する隊員



平成三十年十月十八日（木）、自衛隊中央病院は、平成三十年度感染症患者受入訓練を実施しました。

東京都には都立駒込病院、都立墨東病院、荏原病院の三つの第一種感染症指定病院がありました。平成二十九年四月に自衛隊中央病院が四番目の指定医療機関として加わり、東京都および地域の感染症対策の一端を担っております。

自衛隊中央病院は、国際平和協力活動の拡大等に伴い、新興・再興感染症の対処能力の必要性が増大する中、新病院の開院とともに、陰圧式感染症病床を開設。

平成二十六年のエボラ出血熱の流行等以降、

第一類感染症対応が喫緊の課題となり、第一種感染症医療機関化に向けた態勢整備を実施し、指定医療機関と



「病室収容後、患者の体温、脈拍、血圧等を測定

今年度の訓練は、感染症患者受入対処能力向上を図るとともに、感染症患者受入における指揮所活動を演練しました。

患者の受入訓練に先立ち、個人防護具（PPE personal Protective equipment）の着脱訓練を実施しました。

医療従事者以外の隊員や近郊他部隊の隊員も着脱訓練に多く参加し、感染症認定看護師の指導のもと、医療従事者の安全を確保し、感染拡大を防止するために必須の技術を訓練しました。

その後、会議室に設けられた作戦室において、患者状況の共有及び患者受入体制の意思決定の会議を行い、感染症患者受入に伴う病院の院務運営の変更に関する、指揮幕僚活動の検証を行いました。

午後からの受入訓練においては、前段の訓練で、某国より帰国した世田谷区在住の男性が、発熱等の症状

を訴え、当院を受診し、発症の経緯、症状等より新型インフルエンザ罹患の疑いがあるとの状況で訓練しました。

模擬患者役の隊員が救急外来に訪れると、医事課の隊員が救急外来の勤務員と連携し、勤務員の安全を確保しつつ、適切かつ迅速に受入態勢を整備して椅子用アイソレータを活用し、病室へ搬送を行いました。

病室ではバイタルサインの確認及び入室後の処置を行い前段の訓練は終了しました。

訓練終了後、訓練の振り返りを実施するとともに、訓練研修者からご意見を頂くことで、今後の感染症患者受入要領の改善に反映させるため、意見交換会を行いました。

第一種感染症指定医療機関の医師や、内閣府及び厚生労働省等の関係省庁の担当者から多くの意見やご感想を頂戴し、最後に視察官である上部病院長が訓練を総括し、有意義な意見交換会となりました。

当院はこのような訓練を通じて、地域における感染症対策に貢献してまいります。

連絡を受けた保健所がエボラ出血熱疑似症と判断、当院に受け入れ要請があったとの想定で訓練を行いました。

保健所職員役の隊員がアイソレーターに入った患者（模擬）を搬送、病院職員が申し送りを受けた後に、専用エレベーターで病室に収容しました。

病室では患者からの採血及びルート確保を行うとともに、病室内に設置されたモニターを通じて、情報を共有し、その後、防護措置を行ったX線撮影装置を病室内に搬入し、患者のレントゲン撮影を行い、状況は終了しました。



「保健所職員役の隊員より、患者情報を申し受ける病院職員

↓多くの関係省庁並びに関係部隊の参加を頂いた意見交換会



↑国立国際医療研究センターの医師による情報提供





レッドリボンは、エイズで亡くなった方への追悼と感染者への理解と支援の意思を意味します。



↑ HIV・エイズ治療チームのメンバー

世界エイズデー イベント開催

毎年十二月一日は、世界エイズデーです。世界各地でエイズに関する啓蒙活動が行われている中、当院でも世界エイズデーイベントを実施しました。

世界エイズデーとは、エイズの蔓延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的にWHOが一九八八年に制定したものです。自衛隊中央病院でのエイズデーイベントも今年で三年目を迎え、今年のテーマ「アップデート！エイズのイメージを変えよう」をもとに、HIVの基礎知識に関する展示や、パンフレット配布、予防教室（講義）を行いました。約八十名の参加者からは、「展示がポップでかわいかった」等の意見や、

「明るく、前向きなイベントだと感じた」「講義がわかりやすかった」等の感想を頂きました。



→ 予防教室での講義に
耳を傾ける参加者



→ 来院者にイベントの説明

世界糖尿病デー イベント開催

医師、看護師、検査技師、薬剤師及び栄養士等で編成された糖尿病医療推進チームは、毎年十一月十四日の世界糖尿病デーにあわせて、平成三十年十一月十三日（火）より、病院一階エントランスにおいて、啓蒙活動を実施しました。

エントランスに設けられた各展示コーナーでは、糖尿病にかかわりの深い歴史上の偉人や現代に生きる著名人を紹介するコーナーや、清涼飲料水、アルコール飲料、お菓子等の嗜好品に含まれる糖分を、角砂糖の模型等で視覚的に表現したサンプルを展示するなどの、来院者思わず足を止めて見入ったり、手にとって確かめたいくなる

工夫が施されており、多くの来院者が興味深そうにスタッフの説明に聞き入っていました。



→ 清涼飲料水等に含まれる砂糖を視覚モデルで紹介



→ 自分の血糖値の数値当てクイズに挑戦する来院者



ブルーサークルの青は国連の旗の色、サークルは「団結」「生命」「健康」を意味します。

また、健康教室や自分の血糖値を当てるクイズコーナーには、多数の来院者が参加し、自分の血糖値を測定し、体内の糖に対する認識を新たにしていきました。

クリスマスコンサート開催！

自衛隊中央病院は毎年患者慰問を目的としたクリスマスコンサートを行っています。

本年度は平成三十年十二月二十一日（金）に、陸上自衛隊中央音楽隊が来院のほか、オーブニングアクトとして、駐屯地楽部が箏によるクリスマスソングを演奏し、華を添えました。

同好会の演奏は昨年以上に磨きがかかった演奏を披露しました。

その後、陸上自衛隊中央音楽隊が「アルヴァマー序曲」「そりすべり」等のクリスマス名曲を演奏し、会場に集まった多くの患者さんや職員は、音楽隊や箏曲部の素晴らしい演奏に耳を傾ける姿も見られました。

クリスマス会場の雰囲気を楽しんでいました。



↑ クリスマスの名曲を演奏する陸自中央音楽隊隊員



↑ 駐屯地琴曲部による演奏

中病 So You だより

自衛隊中央病院曹友会は、平成三十年十一月十七日（土）、東京千代田区の「国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑」清掃ボランティアに参加しました。

今年度は会員家族、幹部及び他駐屯地曹友との交流を重視する年度としており、三和会、朝霞駐屯地、十条駐屯地、用賀駐屯地等の曹友会等と連携して、苑内の落葉集め、苗上、通路清掃などを実施しました。

今回が初の参加となりましたが幹部、曹士の枠を超え自衛隊中央病院から十一名が参加となりました。

参加した隊員は、前日までの雨が止み、秋の深まりを感じる晴天の苑内で、先人の方々に感謝の意を込めて清掃に汗を流し、一日を通して貴重な体験を得るとともに、清々しい気持ちで作業を終えることができました。



↑ 清掃ボランティアに参加した各会会員

中病隊員の大活躍！

入校間の活躍及び善行により各学校長並びに部内外機関より表彰された、中央病院隊員を紹介します。

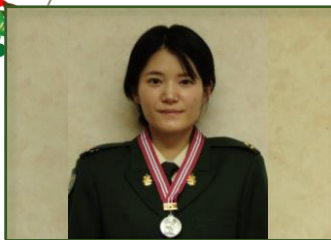
看護部第一看護課 須賀 聖奈三陸尉、同じく第二看護課 今井 由里三陸尉は、衛生学校で実施された第九七期幹部初級「看護官」課程において、また、総務部管理課 古川 晋二陸曹は、第七十五期上級陸曹特技課程「輸送業務」において優秀な成績により、それぞれ表彰されました。

衛生学校長賞



看護部第1看護課 須賀 聖奈三陸尉

衛生学校教育部長賞



看護部第2看護課 今井 由里三陸尉

輸送学校教育部長賞



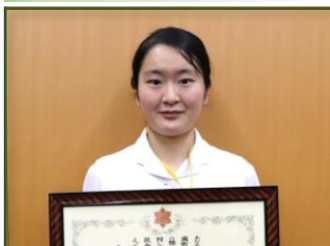
総務部管理課 古川 晋二陸曹

陸上自衛官優秀隊員



総務部総務課 阿久津 努准陸尉

善行表彰隊員



看護部第2看護課 有藤 優希陸曹長

また、前最先任上級曹長阿久津 努准陸尉は平成三十年十一月二十一日（水）、平成三十年度陸上自衛官優秀隊員として選抜され、陸上幕僚長から顕彰状を授与されるとともに、看護部第二看護課有藤 優希陸曹長は、武蔵野市内での人命救助により、東京消防庁八王子署長より感謝状を授与されました。

保健管理センター便り
〔保健相談班〕

口の中の健康について心掛けている事はありますか？
陸上自衛官・事務官等の健康診断結果で、B判定以下になる原因で最も多いのは、歯の病気で、指示区分がある者全体の32.5%を占めていました（平成28年度衛生統計年報）。日本人対象の調査では、20代の約7割、30代から50代の約8割、60代では約9割の人が歯周病に罹患しており、70代前後からは歯の喪失が増加するため、若い年代でも油断大敵です。

生活習慣病と歯の健康

40歳以上の国民が受ける特定健診（通称メタボ健診）では、今年から質問票に口腔保健に関する項目が設けられました。生活習慣病対策における口腔保健の重要性がうかがえますね。
メタボ予防には、一口30回よく噛むことが重要です（噛ミング30）。歯の本数が減って噛めなくなるとメタボのリスクが増加し、歯が抜けたままでは、悪循環に陥ります。
歯を失う二大原因は、むし歯と歯周病です。特に、歯周病は脳卒中や心筋梗塞、認知症などのリスクを高めます。歯周病の進行を防ぐためには、禁煙も欠かせません。是非禁煙しましょう。

未来の健康のために

むし歯は、若年層が歯を失う主な原因です。予防には、歯磨きによって歯垢を減らすこと（歯周病予防においても重要）のほか、歯の再石灰化を促すフッ化物の活用が有効です。
むし歯や歯周病は、自覚症状が乏しいまま進行していきます。歯磨きは回数や時間の長さではなく、質が大切です。日頃のケアと共に、セルフケアが難しいところは、かかりつけの歯科で定期的にチェックを受けることをお勧めします。歯磨き指導も受けられますよ。

最近、歯磨き剤等のフッ化物含有量の上限が1000から1500ppmに引き上げられました。高濃度のフッ化物ほど虫歯予防に効果的です（6歳未満の方は使用不可）。
現在、種類は限られますが1450ppmの高濃度フッ化物含有歯磨き剤、ジェル等が一部の歯科医院で購入可能です（中病は取り扱っておりません）。
一方、歯周病は、一度罹ると完治は出来ませんが、その進行や歯の喪失を遅らせることが可能です。80歳で自分の歯を20本以上有する人の割合（8020運動）は増加しており、平成23年は40.2%、平成28年は51.2%となりました。健康維持に努めてみませんか？

